

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 3 月 28 日作成)

小委員会名	建築アーカイブズ小委員会	主 査 名：山名 善之 就任年月：2010 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会	委員長名：杉本 俊多 主 査 名：
設 置 期 間	2010 年 4 月 ～ 2014 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・我が国において、よりよい生活環境の創成のために、都市及び建築環境の変容の過程と現状を認識する必要性はますます増大している。建築文化に係わる史資料の収集・整理・公開のための「建築アーカイブズ」環境の整備は喫緊の課題となっている。本委員会は、「建築アーカイブズ」環境の整備に必要な一次保管施設の設置を推進し、併せてアーカイブズ・ネットワークの確立と、収集・整理・公開のための共通の方法論を検討することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(2010)国内建築資料の状況調査および建築アーカイブズの問題点整理 ・(2011)国内状況調査・資料整理方法論の研究および事例調査 ・(2012)国内状況調査・資料保存方法論の研究および事例調査 ・(2013)建築アーカイブズ・コンソーシアム形成のための方法論研究 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無し	
	主査：山名善之（東京理科大学） 幹事：山崎鯛介（東京工業大学）、戸田穰（金沢工業大学） 委員（五十音順）：加藤雅久（居住技術研究所）、桐原武志（AALab./芦原建築設計研究所）、倉方俊輔（大阪市立大学）、齋藤歩（学習院大学/MDR）、志岐祐一（日東設計事務所）、鈴木博之（青山学院大学）、笹覚暁（金沢工業大学）、辻泰岳（東京大学大学院）、津村泰範（文化財保存計画協会）、早川典子（江戸東京たてもの園）、藤岡洋保（東京工業大学）	
設置 WG (WG 名：目的)		
2013 年度予算	170,000 円	ホームページ公開の有無：有り 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/academic/seika/11seika/index.htm

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	6 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	なし
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	なし

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>(2013) 建築アーカイブズ・コンソーシアム形成のため、今年度は主として国立近現代建築資料館との連携のあり方が議論の中心となった。 6回の会議を開催(5/15, 6/5, 8/9, 10/18, 10/28, 3/27)。(8/9、10/28は良質な建築ストック形成検討小委員会との合同委員会会議) (第1回 5/15 国立近現代建築資料館) 資料館・DAASと建築学会の連携について話し合われた。資料館から運営・収集・情報管理の方針とともに、委員会体制の説明、設計資料に関する調査について説明があり、意見交換をおこなった。今期小委員会の設置期間終了に伴い、建築学会から資料館への提言が提案された。 (第2回 6/5 建築会館) 前回に引き続き、建築学会から資料館・文化庁への提言について議論がなされた。歴史意匠本委員会と良質な建築ストック形成検討小委員会との合同による提言書の起草が提案された。 (第3回 8/9 建築会館、良質な建築ストック形成検討小委員会との合同委員会) 合同の提言書提出へ向けて、建築学会における建築アーカイブズに係る取り組みについて広く議論があった。とくに学会における建築アーカイブズの位置づけの明確化の必要性が議論された。資料館・学会博物館の他、建築資料を扱う諸機関との連携の可能性が議論された。海外流出・散逸の危険性の高い危機資料、技術資料、資料の受入・運用・権利関係の法整備について議論された。 (第4回 10/18 建築会館) 建築アーカイブズ小委員会の存続が決定されたことをうけ、来期の体制が話し合われた。また、提言書については、今年度、文化庁委託調査事業の結果を受けて、改めて議論することとなった。来年度学会大会(近畿)で研究協議会を開催し、調査報告と提言の場とすることが提案された。 (第5回 10/28 建築会館、良質な建築ストック形成検討小委員会との合同委員会) 第4回会議の内容の説明が、建築アーカイブズ委員会から良質な建築ストック形成検討小委員会に向けて行われた。それを受けて、資料館と学会の連携における、学会の主体性の問題、また建築アーカイブズの社会還元について議論された。 (第6回 3/27 建築会館) 設置期間終了と、主査の交代に伴い一部メンバーの入れ替えと来期の活動方針が話し合われた。 今期は、資料館との連携を中心に活動が行われた。とくに、歴史・意匠本委員会が受託した文化庁委託事業「我が国の近現代建築資料所在情報の概要把握と管理情報方法の提案」実施に伴い、歴史・意匠本委員会下に設置された近現代建築資料全国調査特別WGでは、主査を本小委員会幹事の山崎が務めるとともに、各委員も主要なメンバーとして活動している。 また、本委託事業を受けて提言書の起草は延期となったが、良質な建築ストック形成検討小委員会との合同委員会での議論を皮切りに、今後、学会内での建築アーカイブズの位置づけを議論していく端緒をつけることができた。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2013年度で今期小委員会は設置期間を終了する。来期の体制への円滑な移行が課題となる。 2. 現在、建築アーカイブズに関する取り組みは、上記、近現代建築資料全国調査特別WGを中心に動いている。この活動を、来期以降の建築アーカイブズ小委員会の活動、ならびに学会内の関連委員会活動との連携にどうつなげていくかが課題である。 3. 併せて海外建築アーカイブズとの協力関係構築、日本の建築アーカイブズ活動の発信も課題となる。